

B-5 Endotoxin shock と肺不全—高圧酸素は有効か

福岡八木厚生会病院外科
国立福岡中央病院外科

八木博司
隅田幸男

目的：Endotoxin shock時に生じる肺不全の一治療法として高圧酸素療法は有効かどうかを，生存成績，病理組織標本，および剔出肺圧量曲線の成績から検討した。

方法：体重約350gの雄ラットに0.5mg/100g体重のendotoxinを静注した。ラットは対照，副腎皮質製剤（dexamethasone 0.5mg/100g体重）投与，高圧酸素（2気圧，24時間）療法の3つのグループに分けて観察した。観察事項は生存成績，死亡ラットの肺圧量曲線，病理組織標本などである。

成績と結論：1) エンドキシン投与によってラットは2～3時間以内にショックとなり，一兩日中に全例死亡した。副腎皮質製剤を投与したラットは80%以上の生存率を示した。高圧酸素療法を行ったラットは今回行った条件下では全例死亡した。2) エンドキシンショックで死亡したラット（対照）の肺は浮腫と充血が著明であり肺胞内や間質の浸出液が著増していた。副腎皮質製剤はこの所見を軽減させたが，高圧酸素療法はより増悪させた。3) 肺圧量曲線によると，エンドキシンショック肺では肺胞は膨みにくく，膨みを維持しにくかった。高圧酸素療法を行うと肺胞はより一層と膨みにくく，膨みを維持するのも困難であった。つまり，肺不全を増悪させた。一方，副腎皮質製剤を投与すると肺不全は著しく改善されるようであった。

（プログラム抄録再掲）